

# 三〇〇万人達成記念 市民現場見学会を開催

日建連広報委員会（宮下正裕委員長「㈱竹中工務店社長」）は昨年十一月二十五日、市民現場見学会の参加者が三〇〇万人に達したことを記念して、東京・新宿区の新国立競技場整備事業の現場で見学会を開催した。

市民現場見学会は、二〇〇二年、建設業や社会資本整備に対する理解促進を目的に、旧日本土木工業協会の「二〇〇万人の市民現場見学会」としてスタートした。第一回目のさいたま新都心関連工事現場から全国の建設現場で開催してきた結果、三年後の二〇〇五年に参加者が一〇〇万人を超え、二〇一〇年には二〇〇万人を達成した。開始から八年ほどで参加者が二〇〇万人を超えた背景には、一般の方に、国民の安心・安全な生活を支える社会資本の重要性やそれらをつくり維持する建設業の役割を知ってもらいたい、仮囲いの中で繰り返り広げられていく世界に誇れる技術やものづくりの壮大さを見てもらいたいという関係者の熱意がある。会

員企業と一丸となって取り組んだ成果と言えるだろう。二〇一一年四月の三団体合併後は見学会対象を建築の現場にも広げて取組みは更に加速。二〇一五年からは夏休み特別企画として女子小中学生を対象としたけんせつ小町活躍現場見学会も始まり、市民現場見学会の実施回数は延べ八万回を超え、参加者数三〇〇万人を達成した。

当日は秋晴れの好天のもと一般公募の中高生四一名が参加し、その約半数を女子学生が占めた。会場には新国立競技場の完成模型や施工プロセス模型があり、開会前から参加者たちは興味津々。現場見学会への期待が膨らんでいく。はじめに山内隆司日建連会長（大成建設㈱会長）が「建設中の新国立競技場を訪れた記憶をしっかりと胸に刻んでいただき、本日の見学会が皆さんにとって建設業に興味を持つきっかけとなることを願う」と挨拶し、続いて競技場にちなんで通算三〇〇万人目の参加者に記念の金メダルが、その前後の参加者二名にはそれぞれ銀と



ビッグフラッグを使った記念写真



現場で説明を行う大成建設・末田工事主任



現場ではけんせつ小町たちが参加者を案内



参加者の質問に答える大成建設・船水部長



「今回の見学会を通じて現場の創意工夫や建物づくりの面白さが伝わり、建設業に魅力を感じる学生さんが増えれば嬉しいです」（大成建設・廣作副所長）



山内会長とメダルを授与された3名（左から吉田勇太さん、大倉波奈さん、山内会長、工藤春奈さん）

銅のメダルが贈呈され、全員で三〇〇万人達成を祝った。その後、現場で施工管理を担当している大成建設㈱の廣作利香副所長から工事概要の説明を、末田優子工事主任から注意事項の

説明を受けていよいよ現場へと向かった。

現場では、三〇〇万人達成記念イベント第二弾として、縦七段×横一七段のビッグフラッグを使った記念撮影を行った後、末田工事主任が完成イメージパースを使って建設中のスタンドやマラソンに使用される出入り口などを説明した。将来トップアスリートたちが集うフィールドからスタンドをぐるりと見回す景色は圧巻の一言で、「広い！」「ポルトはこんな景色を見てるんだ！」など矢継ぎ早に歓声があがり、参加者たちは食い入るように各所を見つめていた。きつと今後この地で生まれるだろう記録やドラマに思いを巡らせていたに違いない。会場に戻った後は質疑応答が行われ、近隣対応や女性の活躍状況など大人顔負けの質問に対して一つひとつ丁寧に答えて見学会は無事終了した。

今回、栄えある三〇〇万人目の参加者となった大倉波奈さん（中学二年生）は、一昨年に参加したけんせつ小町活躍現場見学会で出会った女性技術者に憧れて建設業に興味を持ち、将来の夢は外交官か建設業で働くことだと語ってくれた。建設現場で様々な先端技術や工夫に触れることでものづくりのおもしろさに魅せられ、そこで生き生きと働く技術者の背中を追った若き担い手が誕生する。この輪の更なる広がりを目指して日建連では次の目標を五〇〇万人と定め、今後も市民現場見学会の開催に努めていきたいと考えている。